



おもいやりとありがとうの心で



草津市立草津第二小学校 道徳・人権通信 令和4年10月12日 NO.4

☆9月のフレンズデー 「こころって」



転んでこけた時のキズは、外から見えますが、心のキズは目に見えません。周りの人が大丈夫と思っていても、相手の心はキズつくことがあります。どんなに仲良しでも心のキズをつけ合っているとばらばらになってしまうのです。カリンさんは、心のいたみを感じることでできる不思議な絆創膏に出会うことで周りの友だちや兄弟の心のキズに気づくことができました。心のキズはどうやってみつけたらいいんだろう。どうやってなおしたらいいんだろう…。

(出版；大月書店 著者；香山リカ 絵；益田ミリ)

(子どもの感想から)

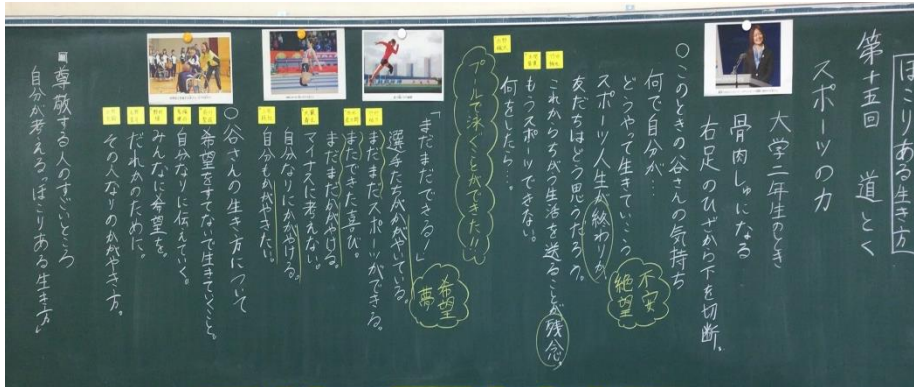
- ・いやな顔をしていないか 相手の顔を見るといいと思いました。
- ・相手の心に気づいて声をかけたいです。
- ・声をかけたり、一緒に話がしたいです。

よかれと思って言った言葉が相手を傷つけたり、自分の思ったままを口にしてけんかになったりすることがよくあります。そんな時おたがいの心の中が見えたらよかったのと思うことがあります。だけど心の中は見えません。どれだけ想像できるか、どれだけ気がつけるかが大事ですね。人はキズつけられたり、キズつけたりもしているのでしょう。でも、いじめはぜったいにいけないことです。人がキズつく言葉や行動はぜったいにいけないことです。

日常の中で「なんでそんなこと言わはったのかな」「こんな言い方はおかしいな」と、ちょっと立ち止まって考えることが大切です。

道徳の学習から

6年生 「スポーツの力」



中学生と交流する谷さん（岩手県盛岡市）

障害や災害などの逆境を、スポーツを通して乗り越え前向きに生きる姿から、希望を持ち続けることのすばらしさを理解し、自らも人間としてよりよく生きていこうという思いを持ちました。自分が尊敬している人の言動から自身の将来について考え、自分にとっての「ほこりある生き方」を見つけました。

〈子どもたちの振り返り〉

- ・ほこりある生き方とは、夢や希望をもって生きることです。
- ・ほこりある生き方とは、いつも笑顔で、人を思いやる気持ちをもって生きることです。
- ・自分に自信もつことでかかやいた生き方につながると思います。
- ・失敗をおそれず、何度もチャレンジすることがほこりある生き方だと思います。

3年生 「お父さんからの手紙」



人の命は自然に生まれ育っているものではなく、親や家族の手によって育てられていることや、いろいろな人の支えにより守られてきたことに気付きました。自他の生命を大切にしようという思いをもち、大切にするためにどんなことに気を付けていくのか考えました。

〈子どもたちの振り返り〉

- ・自分の命も友だちの命も大切にしたいと感じました。
- ・ぼくが大きくなれたのは、家族みんなのおかげなのだと気付きました。
- ・命はたった1つしかないものだという気持ちをもって過ごすことが大事だと思いました。
- ・小さい頃からいろいろな人に大切にされてきたことがわかりました。